

第2学年 生活科学習指導案

奈良市立伏見小学校

川邊甲余子

1単元名：未来からくりおもちゃ館

2単元目標：からくりおもちゃとの触れ合いを通して古くから残されている良さに気づき、試行錯誤を繰り返しながらおもちゃ遊び自体を工夫し、みんなで遊びを楽しんだり創り出したりできるようにする。

3単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
①奈良町からくりおもちゃ館では、地域の人や観光客など多くの人にからくりおもちゃの良さを伝えるために活動していることに気づくことができる。 ②からくりおもちゃについて、動きの面白さや不思議さに気づくことができる。	①からくりおもちゃの良さに気づき、多くの人に知ってもらうための方法を考えることができる。 ②からくりおもちゃの仕掛けを考え、身近にあるものを活用して、からくりおもちゃを試行錯誤しながら工夫して作成している。	①からくりおもちゃ館の方との交流で積極的にからくりおもちゃと触れ合おうとしている。 ②未来からくりおもちゃ館に向けて友達との繋がりを大切にしながら、よりよりおもちゃや遊び方を創り出そうとしている。

4:単元について

(1) 教材観

本単元は、江戸時代から続くからくりおもちゃとのふれあいを通して、現在も残されている良さに気づき、児童が遊びを楽しむための工夫の仕方を考え、実際に試行錯誤しながらおもちゃを創り出すことをねらいとしている。

奈良市には、「奈良町からくりおもちゃ館」という奈良町にある古民家を改装し江戸時代のからくりおもちゃを復元したものが展示している。からくりおもちゃとふれあいながら後世へと繋いでいく大切さを学ぶことができる施設である。

からくりおもちゃとは、木や竹・和紙などの自然素材でできた玩具のことである。江戸時代以降に作られたものが多く、人間や動物に模した人形などを自然素材の特徴を生かして動かして遊ぶものである。

そこで、本単元では、からくりおもちゃの体験を通して、材料の特徴を生かした仕掛けを考え、おもちゃを作っていくと共に、後世へと繋いできた努力に気づいてほしい。また、自分たちでもからくりおもちゃを創り多くの人に知ってもらう機会から、伝えていく役割の一人であることに気づくことができる考えた。

また、来年児童は3年生になり、生活科から理科や社会科とより教科が広がっていく。この単位を通して、地域の伝統や文化を知っていくことで生活科と社会科の接続になると考えた。

(2) 児童観

本学年の児童は151名と校内でも最も多い学年である。活発で明るい児童が多いが、中には落ち着きがない児童が目立っている。その実態を踏まえ、1学期の町探検の際、地域の方との交流が少なく、校区の良さに気づききれずに単元を終えている。また、コロナ禍で人との交流が少ない環境で育ってきていることで人との関わり方の良さに気づけていない児童が多くいると感じている。

2学期になり、学校行事も増え「一体感」を肌で感じていく中で、思いを知ったり伝えたりすることや協力することの大切さを少しずつ学んでいる。

からくりおもちゃ館の館長やボランティアの方との関わりを通して、からくりおもちゃを伝えようとする人々の働きや努力を感じて欲しい。また、自分たちも「伝える人の1人」であることに気づき、子どもたちなりのできることを探して行ってほしいと考える。

(3) 指導観

本単元の導入として国語科「馬のおもちゃの作り方」の説明文を活用する。この教材は、馬のおもちゃの作り方について接続詞を使って説明していく文章である。この教材を読みながら実際に馬のおもちゃを作る。ここで、上手に作れた児童がいたり、説明を読んでも上手にできず困っていたりする児童など、様々な思いを引き出して、おもちゃ作りの難しさに気づくようにする。

その後、『つかむ』では、奈良町からくりおもちゃ館の方々に来てもらい、からくりおもちゃの体験をする。からくりおもちゃが動く不思議さを肌で感じる。さらにはからくりおもちゃが動く仕掛けを予想し、面白さを考えていく。

『調べる』では、からくりおもちゃ体験をもとに、馬のおもちゃや身の回りのおもちゃとからくりおもちゃの違いを見つけていく。現代のおもちゃは、ゲーム機やラジコンなど電池や電気で動くおもちゃの種類が増えてきた。電子的なおもちゃと自然の特徴を動力とするおもちゃの違いを考えていく。違いを考えたのち、奈良町からくりおもちゃ館安田真紀子館長に出前授業をしてもらい、からくりおもちゃの魅力を見学が知っていく。ここで、もっと多くの人に知ってもらいたいという館長からの思いを聞き、問題を考えていく。出前授業ののちにこれからも残していくために2年生でもできることを出し合い、おもちゃを自分たちで作って体験してもらおう場を設ける。

『深める』では、伏見アート展（図工作品展）で展示をし、校内や保護者の方に知ってもらうためにからくりおもちゃを制作する。安田館長から頂いた資料を基にからくりおもちゃを作っていく。しかし、自然素材がなかなか手に入らないことから、身の回りにある空き箱や割り箸などを使って作っていく。友達とアイデアを出し合いながら、自分なりのからくりおもちゃを作る。その際、失敗は恐れず友達と遊びを試しながら、より良いものになるためどうすればいいか考えていくように促していく。

『広げる』は、伏見アート展（図工作品展）をして、多くの方に知ってもらう。その際、使い方などもあわせて掲示をし、物を大切に扱うことを促しながら、残していこうとする努力を体感できるようにする。その後、たくさんの人に触ってもらって気づいたことを出し合い、大事にしたい気持ちやからくりおもちゃの良さを改めて感じていくことができるようにする。

(4) ESD との関連

・本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

多様性…奈良にはこれからも大切にしていきたい様々な「からくりおもちゃ」があること。

公平性…【世代間】江戸時代、現在、未来とのつながりを感じ、保存されている意義について考える。

【世代内】残されている良さを多くの人に知ってもらおう。私たちも残していく 1 人であることに気づく。

・本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

[多面的・総合的に考える力]

失敗を繰り返しながら、より良いおもちゃを作れるように試行錯誤しようとする。

[他者と協力する態度]

助け合いながら、おもちゃを作ることができる。考えたことを共有したり、困っている友達に教えてあげたりする。また、自分の思いや困っていることを友達に伝えたりする。

[進んで参加する態度]

からくりおもちゃ体験やからくりおもちゃの作成を楽しむことができる。からくりおもちゃ館で働く人に使い方を聞いたり一緒に触ったりする。

自分たちの周りにある材料を考え、試行錯誤しながら作成しようとする。

・本学習で変容を促す ESD の価値観

[世代間の公正]

江戸時代以降に作られ、現代も残っていることの凄さに気づくことが大切である。残すことがなぜ大切なのか気づくことが必要である。

[世代内の公正]

からくりおもちゃを楽しむだけでなく、お家の人や 1 年生、地域の人など、同じ時間を過ごすからくりおもちゃを知らない人たちが興味を持ってもらうことが大切である。

・達成が期待される SDGs

目標 12：つくる責任・つかう責任（生産と消費）

5:授業計画

	○主な学習活動・内容	・指導上の留意点 ◇評価
つかむ	<p>○説明文を読みながら、馬のおもちゃを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科「馬のおもちゃの作り方」を読みながら、説明に基づいて作っていく。 ・おもちゃ作りの楽しさや達成感を感じる。 <p>○奈良町からくりおもちゃ館の方々に来校してもらい、からくりおもちゃの体験をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験してみて面白いと思ったものを3つ挙げ、しかけを予想する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科と合科的視点で取り組む。 ・過去に作ったおもちゃを思い出しながら作るようにする。 ・しかけを予想できるようにワークシートに記入させる。 <p>◇ワークシート（知②） からくりおもちゃ体験（主①）</p>
しるべ	<p>○馬のおもちゃや身の回りのおもちゃとからくりおもちゃを比べ、仕掛けの面白さに気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の身近にあるおもちゃをたくさん出し合う。 ・電気で動くおもちゃとからくりおもちゃの違いを明確にする。 <p>○からくりおもちゃがなぜ今も大切に残されているのかを考え、調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕掛けのあるおもちゃが今も大切にされている意味を予想する。 ・奈良町からくりおもちゃ館 安田真紀子館長からの話を聞き、からくりおもちゃの仕掛けの答えや先人の知恵を聞き、面白さに気づく。 ・これからも残していきたいという館長の思いを聞いて自分たちに何ができるかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いて自分の考えを持つように促す。 <p>◇ワークシート（思①）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕掛けの面白さに気づくようにする。 ・身近なものを使って作られているものであると気づくようにする。 ・からくりおもちゃの資料をもらい、おもちゃ作りへの意欲につなげる。 <p>◇出前授業のお礼の手紙（知①主②）</p>
ふかめる	<p>○からくりおもちゃをもっと多くの人に知ってもらう方法を考え、出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が実際に触れたり話を聞いたりして感じたことを出し合う。 ・からくりおもちゃの課題を考える。 ・伏見小学校でおもちゃを触ってもらう機会を設けるために必要なことを出し合う。 <p>○からくりおもちゃ作りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然素材がなかなか集まらないことから、身の回りにある空き箱や割り箸などで作成する。 ・グループになって友達と相談しながらおもちゃ作りをする。 ・実際に遊びを試しながら、より良い方法を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人に知ってもらうために伏見アート展（図工作品展）でからくりおもちゃを展示したいという意欲が出るように指導する。 <p>◇話し合い（思①）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館長からもらった資料を読み取るように促す。 ・読み取れたことはみんなで共有をしながら、協力して作り合うことを重視できるようにする。 ・試行錯誤しながら作るために、失敗

		<p>をすることが良いことであると気づくようにする。</p> <p>◇ロイロノートのふりかえり・作品 (思②主②)</p>
<p>ひろげ</p>	<p>○伏見アート展に出品する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使い方などの説明を作る。 ・たくさんの人に知ってもらい嬉しさに気づく。 <p>○伏見アート展で触ってもらった時に感じたこと考えたことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に触ってもらった時の気持ちを出し合い、ものを大切に扱うことの大切さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に説明する文章を書き、読み手に何を伝えたいかを明確にして、文章を作るように促す。 ・触ってもらって喜んでもらった時の気持ちを共有できるようにする。 <p>◇話し合い (思①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作り手の「残していきたい」という気持ちと使う人も「大事に扱う」ことにつながりに気づくように促す。 <p>◇ワークシート (思①主②)</p>